

脚サポーターの改造

1 相談内容

相談者は筋萎縮性側索硬化症(ALS)であり、ベッド上で生活している方です。手でマウスを持ってパソコンを操作することが難しいので、特殊な入力装置を使っておられます。額に反射シールを貼って画面上のマウスカーソルを動かし、左クリック動作は本人の残存機能を活かす目的で、右脚を外側に動かして改造マウスに繋いだタッチセンサでその動作を行っています。しかし夏場の日中、エアコンの風が脚に当り、寒いので脚のサポーターを履いたまま、左クリック動作をできないかと相談を受けました。そこで電気を通す導電性糸を縫い付けてサポーターのままで左クリック動作できる方法を提案しました。本人もそれで試してみたいと納得されたので、サポーターに導電性糸で縫い目を作ることにしました。

2 利用者プロフィール

40代男性、ALSにより身体障害者手帳1級、要介護5であり、家族と暮らしています。

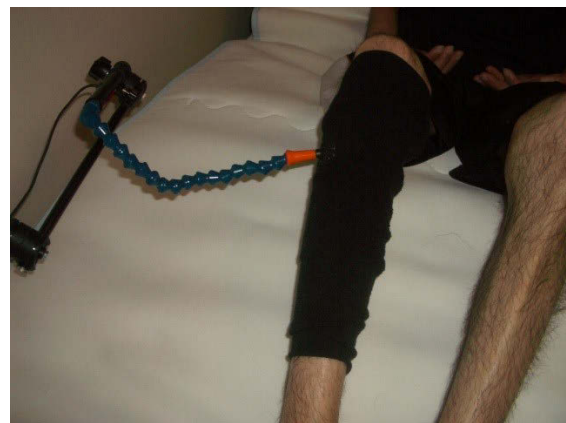
3 対応

インターネットの通信販売で導電性糸を入手します。3cm×3cmの範囲で導電性糸をサポーターへ縫いつけます。糸は必ず、裏側まで通して直接、肌に触れるようにします。本人の脚の動きによっては縫い付ける範囲を広くとります。

本人右脚の回外動作によって、固定したタッチセンサが導電性糸を縫いつけた所に触れるように、サポーターやタッチセンサの位置を調整します。



縫い目を付けたサポーター



クリック動作の様子

4 結果

本人からはエアコンの風が脚に当たらず、使い勝手も良いとの感想をいただきました。